



陶芸は一生できる趣味

きのしたとしひろ
木下敏廣さん 南黒田 (76歳)

「50名の会員が、1週間で5班に分かれて創作活動に励んでいます。教室の雰囲気は各班で特色がありますが、私の班では家庭でのストレス発散場所として、大いに話し、大いに笑って、体をリフレッシュして健康になろうをモットーにしています」

定年退職後、陶芸を始めた木下敏廣さん。現在は、松前町陶芸教室の代表を務めています。

そんな木下さんの班では、みんなで輪になってワイワイと過ごす、食事のときが特に楽しい時間のようです。

「僕はいつも言うんです。ここへ来たら貯めているストレスを発散して笑いの雰囲気を作ろう。明るくやっていこうって。静かな中で集中して作品を作るのもいいけど、土をいじりながら冗談を言い、笑い転げて作品を作るのもいいんじゃないかな」

教室では、干支飾りや花瓶など、多種多様の作品が作られています。

「織り出したらよ仕上げたい。自分がやろうと思ったら朝でも夜でもして時間も忘れてしまふんよ。楽しんで楽しんで仕方ない」

樋口さんは両目とも白内障の手術をしたそうです。

「視力が落ちてきたけどまだ大丈夫。糸を通すのも勘が半分できてるけん。楽しみがあるけんまだ死

ねんね」

そう話す樋口さんは、料理も掃除も洗濯も、何でも自分でできています。

「料理にしても、作るのが好きやけん、楽しんでしよるよ。年取ってもなるべく人にたよらんとがんばらんといかん。秋になったけん草引きもせないかんね。動かんと

元気でおれんけんね」

ただ手芸の材料を買いに行くのだけは、娘さんの手をかります。

「自分でタクシーで行ってもいいけど、その手芸店にはカートがないけん。杖だけでは支えが足りんとつきたいから、また手芸店に行くのが楽しみよ」

「乾燥させ、釉薬をかけ、そして本焼をして冷却したところで窯出しをする。窯出しをする時が一番の楽しみですね。この瞬間のスリルがたまりません。その場で仲間と褒め合ったり、批判し合ったり。家に帰ったら家の人もいろいろ言ってくる。がっかりすることもあるけどね」

こうして心をこめて作った作品は、毎年町の文化祭(今年は11月8日、9日)に出展しています。

「陶芸は一生できる趣味ですよ。自分で考えて作ったものを、いつまでも家で使えますからね。興味のある方は陶芸を始めてみませんか。楽しいですよ」

